

西山地蔵院文書

京都大学史料叢書6

2015年9月刊行予定

早島大祐 編

ISBN978-4-7842-1816-5

▶ A 5判・420頁／定価：本体13,000円（税別）

西山地蔵院は応安元年（1368）に細川頼之が京都西郊の地に創建し、碧潭周皎を事実上の開基とした禅宗寺院である。

現在、京都大学総合博物館が所蔵する西山地蔵院文書は、創建当初から戦国時代までの文書を残し、守護が創建した京菩提寺に関する基本史料として位置づけられるとともに、室町期の荘園制や都鄙交通を考える際に注目されてきた禅僧や守護奉行人の活動が具体的にわかる社会経済史上の重要史料である。

影印・翻刻に、解説を加え、「西山地蔵院文書編年目録」を付記。

【内容】

I 影印編

II 翻刻編

III 解説編

「西山地蔵院領の形成と展開」
（早島大祐）

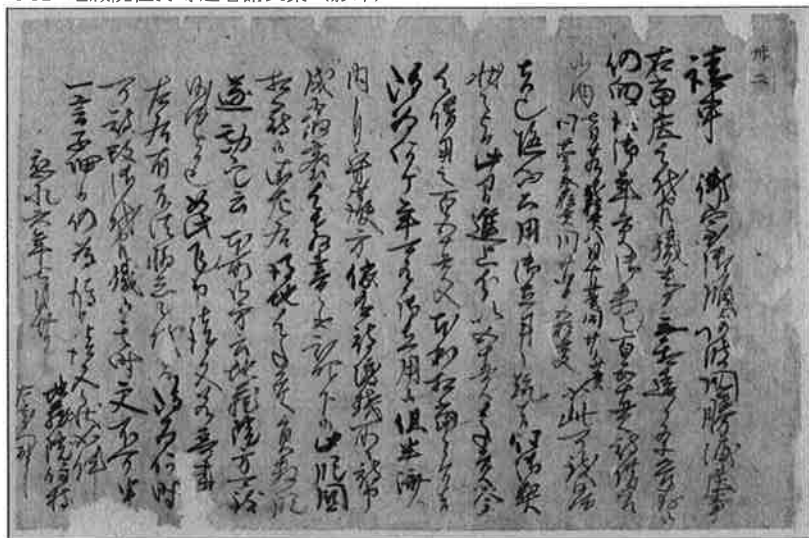
西山地蔵院文書編年目録

1-32 地蔵院住持等連署請文案（翻刻）

1—32 地蔵院住持等連署請文案
請申 御室御領阿波國勝浦庄事
右当庄御代官職事、無相違候条畏存候、仍向後御年貢御料足百五十貫被借召候内、七月廿九日貳拾貫、八月十日廿貫、同廿日廿貫、同廿四日貳拾貫、同廿五日貳拾貫、同廿六日貳拾貫、同廿七日貳拾貫、同廿八日貳拾貫、同廿九日貳拾貫、同三十日貳拾貫、如此可致沙汰者也、隨而公用御立用之趣者、任御契状之旨、此間進上分以五十貫御年貢、今御借用之百五十貫文本利相当之間者、雖為何ヶ年、可有御立用候、但半済内自守護方依有被渡殘所々、被申成嚴密御教書之由被仰下候、此段国相學候、依左右彼地御年貢員數段勘定、云 本所御方、云地蔵院方可致沙汰者也、如此乍申請文、若寄事□左右、有不法懈怠之儀者、雖為何時、可被改御代官職候、其時更不可申一言子細候、仍為後日請文之状如件、
応永六年七月廿日
地蔵院住持
左衛門尉

組見本

1-32 地蔵院住持等連署請文案（影印）



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	西山地蔵院文書		本体13,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1816-5
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもご購入求め、お取り寄せできます ◎				

本書HPのQRコード



中世アーカイブズ学序説

上島有著

文書を単なる文献資料としてのみ扱うのではなく、「もの」としてとらえ、その総体を研究の対象として続けてきた著者が、永年の研究成果を「アーカイブズ学序説」としてまとめる。古代から近現代にいたるまでを一貫した観点でとらえる理論的枠組みを提唱し、それをふまえた本論・補論で、中世・近世にまたがる個別文書群について論究する。
▶B5判・428頁／本体 13,000円(税別) ISBN978-4-7842-1542-3

東寺文書と中世の諸相

東寺文書研究会編

日本の古文書を代表する史料群であり、中世の基本史料である国宝「東寺文書」。本書は、東寺文書に魅せられた中世史研究者により、1994年に降続けられた東寺文書研究会での研究成果の第二弾。研究会の報告を基礎に最新の成果を披露した19篇。
▶A5判・654頁／本体 11,000円(税別) ISBN978-4-7842-1578-2

南都寺院文書の世界

勝山清次編

東大寺宝珠院(法華堂文書・宝珠院文書)と興福寺一乗院坊官二条家(一乗院文書・一乗院御用日記)に伝来した文書の調査・研究の成果。多くは、これまで利用されていなかった文書を用いた論考であり、東大寺・興福寺を中心とした南都寺院の寺領やネットワークに関する研究をこれらの史料をもとに展開する。論考8篇と史料翻刻3篇収録。
▶A5判・350頁／本体 5,800円(税別) ISBN978-4-7842-1369-6

中世寺院社会と民衆 衆徒と馬借・神人・河原者

下坂守著

中世において比叡山延暦寺が果たした歴史的役割を、活動実態とその支配下にあった京・近江の民衆との関係を中心に考察。山門の喧訴の検討から、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じ、中世都市京都の変容についても絵画史料を駆使して明らかにする。
▶A5判・432頁／本体 7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1779-3

在京大名細川京兆家の政治史的研究

浜口誠至著

幕政を将軍・大名による共同執政という観点から、両者を一体的に検討するために幕府儀礼に注目。細川京兆家独自の政治動向である奉行人奉書による裁許の補完と幕政代行を検討することで、同家の政治的位置の解明を図る。最後に明応の政変以前からの在京大名の政策決定への関与を動態的に考察、制度史中心の幕府政治史を相対化する。
▶A5判・328頁／本体 6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1732-8

※日本中世政治文化論の射程

山本隆志編

編者の指導・学恩を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究成果を収録した論文集。【執筆】関周一／山田雄司／濱口誠至／阿部能久／井上智勝／新井敦史／山澤学／荻米一志／山野龍太郎／佐々木倫朗／須賀忠芳／平野哲也／菌部寿樹／小山聡子／佐藤喜久一郎／門口実代
▶A5判・344頁／本体 7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1620-8

※京都の都市共同体と権力

仁木宏著

思文閣史学叢書

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析した一書。
▶A5判・332頁／本体 6,300円(税別) ISBN978-4-7842-1518-8

中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？ 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？
 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。
▶A5判・584頁／本体 7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1502-7

東寺百合文書を読む よみがえる日本の中世

上島有・大山喬平・黒川直則編

国宝「東寺百合文書」から50点を選び、「東寺」「武家」「民衆」の3テーマで構成。テーマ毎に編者による概説を、各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付し、写真は大型図版で掲載。東寺百合文書の持つ多様な魅力とともに、一通の文書を読み解く面白さも紹介する。
▶B5判変・164頁／本体 2,500円(税別) ISBN978-4-7842-0978-1

中世の契約社会と文書

村石正行著

従来、中世の契約慣習のなかで債権者から渡され債務者の側に残る文書についての研究は等閑視されてきた。本書は売買・貸借などの契約関係を題材に、それに関わる契約者双方の文書作成のあり方を検証、「塵芥集」における法慣習なども採用しながら、双方向の文書授受とそれにまつわる文書作成が一般的におこなわれていた可能性を示す。
▶A5判・352頁／本体 7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1668-0

日本中世の地域社会と仏教

湯之上隆著

静岡大学人文社会科学部研究叢書46

写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明らかにする。余篇として、幕末維新期、最後の世代の国学者小杉樗牛の活動についての論文を掲載。
▶A5判・384頁／本体 8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1773-1

日本中世の領主一揆

呉座勇一著

南北朝内乱以降、多種多様な一揆が結ばれる中で最初に時代を牽引したのは、年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者である在地領主による一揆であった。本書は「領主の一揆」の構造・機能・結合論理を解明し、新しい国人一揆論を提示する試み。
▶A5判・380頁／本体 7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1721-2

室町幕府管領施行システムの研究

電田俊和著

本書は、応仁・文明の大乱以前の室町幕府における根幹の制度であり、將軍の主従制的支配権を強化・促進し、全国の武士・寺社本所に権益を与えることによって政権基盤の強化に大きな貢献を果たしたと評価できる管領施行システムの沿革と意義を分析・解明する。
▶A5判・544頁／本体 9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1675-8

中世寺領荘園と動乱期の社会

熱田公著

思文閣史学叢書

中世畿内における荘園研究の先駆者の一人である著者が遺した主要な業績を4部構成でまとめる。高野寺領荘園支配の確立過程・紀州における惣の形成と展開・室町時代の興福寺領荘園について・中世大和の声聞節に関する一考察など全16篇・付論1篇を収録。
▶A5判・540頁／本体 9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1203-3

※室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

【内容】Ⅰ政治を読みなおす 1 公武関係を読みなおす(松永和浩・桃崎有一郎) 2 都鄙関係を読みなおす(山田徹・吉田賢司・平出真宣・尾下成敏) Ⅱ社会史を読みなおす(西島太郎・清水克行・三枝暁子) Ⅲ経済史を読みなおす(早島大祐・高谷知佳) Ⅳ宗教史を読みなおす(大田壮一郎・安藤弥)
▶A5判・408頁／本体 4,600円(税別) ISBN978-4-7842-1371-9

日本中世の環境と村落

橋本道範著

第1部では、中世琵琶湖漁撈と首都京都での消費という問題を中心に、中世村落にとっての「水辺」における漁撈の歴史的意義を問い、第2部では、他地域の検討もふまえ、13世紀を画期として、小さなムラが精緻な地域資源利用の主導権を握るとする「生業の稠密化」論を提起し、従来の集約化論や集村化論を止揚する。
▶A5判・444頁／本体 8,400円(税別) ISBN978-4-7842-1764-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
 電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。